



秋田県健康環境センター 業務概要

Akita Prefectural Research Center
for Public Health & Environment

秋田県健康環境センター

◆ はじめに・・・ 健康環境センターについて

秋田県健康環境センターは、平成18年度に旧衛生科学研究所と旧環境センターが統合して設立され、両機関から地域保健対策の推進支援と環境保全という役割を継承し、現在は「健康被害の防止」と「環境の保全」を基本として業務を行っています。

「健康被害の防止」については、新型インフルエンザウイルス等の新興感染症、ノロウイルス、病原性大腸菌などによる感染症や食中毒への対応や、食品中の残留農薬などによる食品の安全・安心の確保への対応がますます必要とされています。

また、「環境の保全」については、本県の環境は比較的良好な状態が保たれているものの、依然として八郎湖の富栄養化や田沢湖のpH改善、PM2.5等による広域的な大気汚染、あるいは、破産した産業廃棄物最終処分場の汚染された地下水の管理への対応などの課題があります。

さらに、平成23年3月の福島第一原子力発電所の事故以降、県民の安心・安全確保のため、放射能の測定体制を強化し、大気、水及び農作物等の測定を行っており、その測定結果を速やかに県のウェブサイトなどで公表しています。

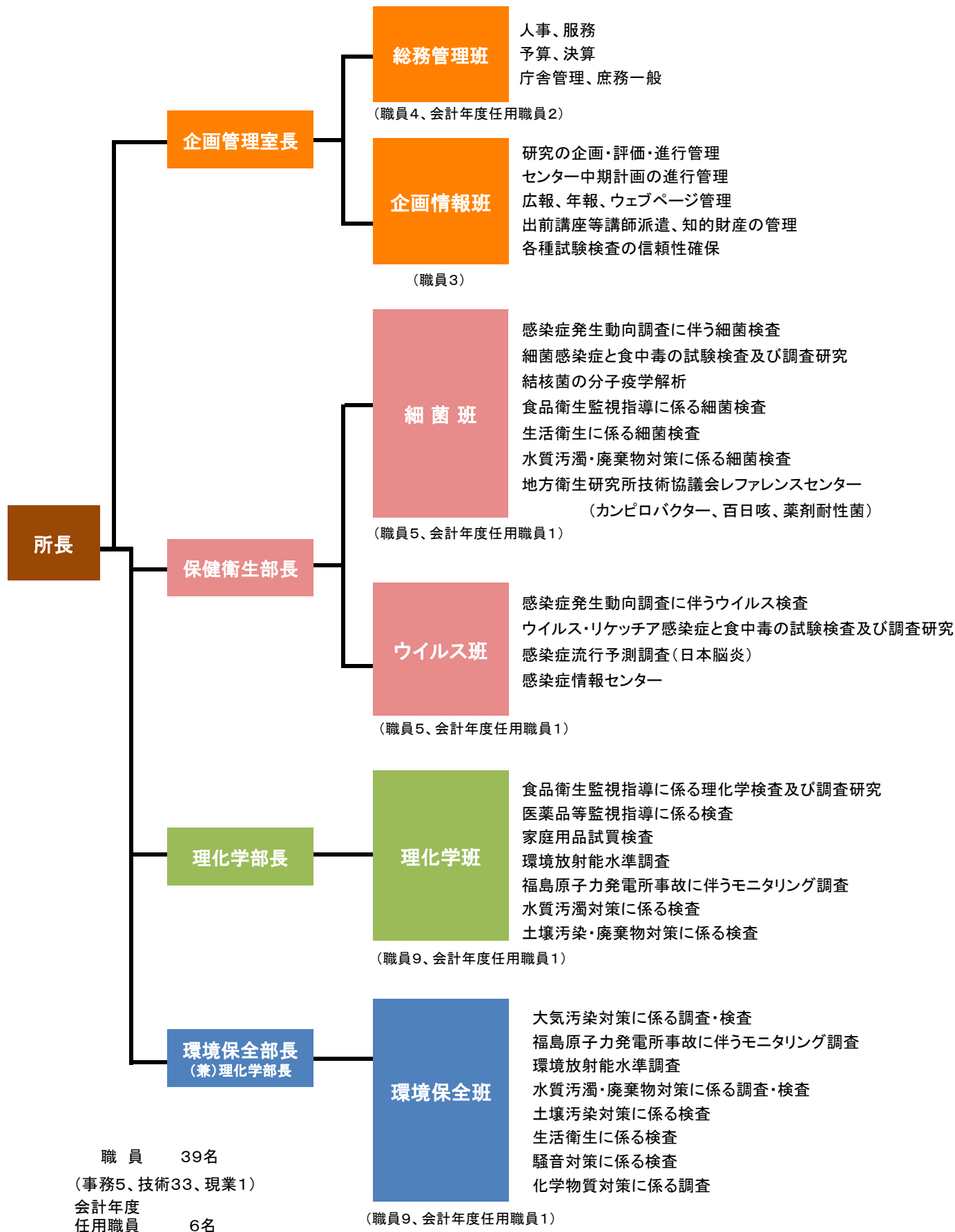
保健衛生・環境行政を科学的・技術的に支援するという役割を担っている当センターは、このような本県の現状を見据え、県民の健康と本県の環境を守るために必要とされる様々な試験検査及び調査研究に取り組んでいます。

また、県内の感染症の発生状況に係る情報、大気汚染常時監視情報、放射能検査結果等について、随時、ウェブサイトなどで公開し、分かりやすく県民に発信しています。

◆ 沿革

年. 月	事 項
	(旧衛生科学研究所)
明治35. 7	・ 衛生試験所を秋田市牛島町に設立。
昭和39. 4	・ 衛生科学研究所に改称。
39. 6	・ 庁舎を秋田市古川堀反町（現千秋明德町）に新築移転。
45. 7	
48. 7	・ 公害技術センターを秋田市茨島の工業試験場内に設立。
56. 4	・ 庁舎を秋田市八橋に新築移転。
61. 8	・ 環境技術センターに改称。
平成12. 4	・ 庁舎を秋田市千秋久保田町に新築移転。
14. 3	・ 環境センターに改称。
	・ 秋田市山王の県庁第二庁舎に総務班及び監視・情報班を置く。
	・ 八橋分室敷地内にダイオキシン類分析棟を新築。
18. 4	・ 衛生科学研究所と環境センターを組織統合し、健康環境センターとして発足。
	・ 千秋庁舎に企画管理室及び保健衛生部を、八橋庁舎に環境部を設置。
21. 4	・ 八橋庁舎の環境部を千秋庁舎に移転し、庁舎を統合。
	・ 保健衛生部の理化学部門と環境部の化学物質部門を統合した理化学班を環境・理化学部内に設置。組織を企画管理室、保健衛生部及び環境・理化学部とする。
22. 4	・ 保健所の試験検査課を統合。
	・ 保健衛生部の微生物班を細菌班とウイルス班に再編し、健康科学班を健康科学・管理班に名称変更。
	・ 環境・理化学部を理化学部と環境保全部に再編。理化学部には、理化学班を再編した食品理化学班と環境理化学班を設置。環境保全部には環境調査班を名称変更した環境保全部を設置。
24. 4	・ 企画管理室の総務・企画班を再編し、総務管理班と企画情報班を設置。保健衛生部の健康科学・管理班を廃止。理化学部の食品理化学班と環境理化学班を統合し、理化学班を設置。

◆ 組織と業務



職員 39名

(事務5、技術33、現業1)

会計年度
任用職員 6名

計 45名

(R4. 4. 1 現在)

◆ 秋田県健康環境センター中期計画について

～大変革の時代～新秋田元気創造プラン

●健康・医療・福祉戦略

・県民の生活を支える保健・医療・福祉サービスの充実を図り、全ての人々が共に支え合い、健康で心豊かに暮らせる環境づくりを推進します。

●基本政策

- ・快適で暮らしやすい生活の実現
- ・安らげる生活基盤の創出
- ・良好な環境の保全

センターの役割

- 感染症法、地域保健法に基づく病原体の迅速な検査及び疫学調査の実施
- 地方感染症情報センター業務
- 食品衛生法に基づく食品衛生検査の実施
- 環境の保全に関する試験検査及び調査研究並びに環境の状況の監視
- 緊急時の対応

中 期 計 画

(R4年度～R7年度)

基本方針と推進分野

健康被害の防止

病原体の迅速な検査及び疫学調査、食品衛生検査の機能強化、未規制化学物質等の対策に取り組む。

環境の保全

大気・水質等の監視、三大湖沼の水質改善、能代産業廃棄物処理センターの汚水の適正処理等に取り組む。

【推進に当たっての視点】

1. 分析技術や精度の向上
2. 情報収集・解析、発信の能力の向上及び的確な実施
3. 行政ニーズ・行政課題に直結した調査研究の実施及び成果の還元
4. 行政依頼検査の確実な実施
5. 危機発生時の危害防止に係る迅速な対応

調査研究のテーマ

- 感染症・食中毒の疫学、検査技術の開発等
- 食品中の残留農薬等の検査技術の構築
- 未規制化学物質等に係る調査研究
- 田沢湖の水質変化対策、十和田湖の水質改善、八郎湖の富栄養化対策

試験検査業務

- 感染症・食品衛生対策に係る検査
- 生活衛生に係る検査
- 環境放射能調査、化学物質対策調査
- 大気・土壌汚染及び水質汚濁対策に係る検査
- 騒音・廃棄物対策に係る検査

情報収集・解析・発信業務

- 感染症発生情報
- 空間放射線量モニタリング情報
- 大気汚染常時監視(テレメータシステム)

危機発生時の対応

- 新型インフルエンザ等新興感染症の発生
- 原子力関連施設の事故や核実験による放射能の拡散
- 大気汚染物質の拡散
- 工場や廃棄物処理施設等からの汚水の流出 など

研究成果

検査結果

他機関との連携

技術支援

行政施策等への反映

秋 田 県 民

◆ 主要な試験検査業務

○**感染症対策**: 感染症や食中毒の原因となる細菌(病原性大腸菌、結核菌、サルモネラ属菌等)やウイルス(インフルエンザウイルス、ノロウイルス等)についての検査や、つつが虫病血清抗体検査などを行い、発生時の原因究明や衛生指導に活用しています。



病原性大腸菌の遺伝子検査



細胞培養によるウイルス検査

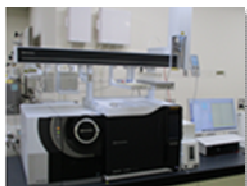


インフルエンザウイルス

○**食品衛生対策**: 食品衛生法に基づき、県内で流通する食品の成分規格や使用基準について、細菌、添加物、残留農薬等の検査を行っています。



牛乳の検査



残留農薬の検査

○**環境放射能調査**: 流通食品、県産農産物、廃棄物、最終処分場放流水等の放射性物質の測定を行っています。



ガンマ線スペクトロメーター

○**水質汚濁対策調査**: 十和田湖、田沢湖、八郎湖等の水質を定期的に調査し、水質の状況を監視しています。

また、工場等の排水を検査し、排水基準の適合状況を調査しています。



田沢湖調査

○**廃棄物対策調査**: 産業廃棄物処分場、能代産業廃棄物処理センター環境保全対策等に係る放流水や地下水の調査を実施しています。



ガスクロマトグラフ質量分析計(GC/MS)

◆ 危機発生時の対応

新型インフルエンザ等新興感染症の発生

新型コロナウイルスや新型インフルエンザウイルス等による新興感染症が発生した場合、病原体の遺伝子検査等を実施します。

放射性物質に係る事故等の発生

原子力関連施設での事故の発生や近隣国で核実験等が行われた場合に、大気中の空間放射線量の監視や水道水、降下物、流通食品、県産農産物等の放射能の測定を強化します。

大気汚染物質の拡散

PM2.5等の大気汚染物質濃度が基準値を超える恐れがある場合、監視を強化します。

工場等からの汚水流出

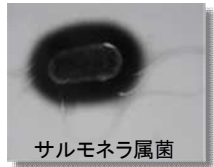
工場等や事業場で汚水流出等の事故が発生した場合に、周辺環境調査を実施します。

◆ 主要な調査研究

【 感染症対策 】

- 重症例由来下痢症起因菌のサーベイランス手法および病原性評価系の確立に関する研究
(R3～R5年度 国立感染症研究所 他 と共同)

新規の下痢症起因菌であるエシェリキア・アルバーティーなどの疫学解析手法や病原性評価などを実施しています。



サルモネラ属菌

- ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランスとワクチン効果の評価に関する研究
(R3～R5年度 国立感染症研究所と共同)

将来のおたふくかぜワクチン定期接種化に備え、全国的サーベイランスシステムの構築に協力しています。

【 食の安全・安心 】

- 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究
(R3～R5年度 国立感染症研究所等と共同)

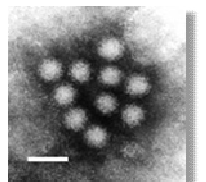
腸管出血性大腸菌O157の迅速な分子疫学解析手法を導入するとともに、北海道・東北・新潟地区において情報の共有化を図り、集団感染の早期探知及び健康被害の拡大防止に役立っています。

- 食中毒原因細菌の検査法の整備のための研究 (R3～R5年度 国立医薬品食品衛生研究所 他 と共同)

腸管凝集付着性大腸菌の保有する毒素であるEAST1を産生する大腸菌の食品での検査法及び制御に関して研究を行っています。

- 食中毒原因ウイルス等の汎用性を備えた検査法と制御を目的とした失活法の開発のための研究 (R4～R6年度 国立医薬品食品衛生研究所と共同)

ノロウイルスによる食中毒に係るリスクを低減するために、汚染ルートの解明に役立つ検査法を開発するとともに、下水や二枚貝におけるウイルスのモニタリングを行っています。



ノロウイルス

【 湖沼等の水質保全対策 】

- 八郎湖の富栄養化対策のための調査研究

八郎湖流域の富栄養化の機構解明に関する調査研究を行っています。



- 自然湖沼における気候変動影響の観測と評価 (R3～R5年度 国立環境研究所と共同)

気候変動による影響を把握するため、八郎湖の貧酸素化に関する調査研究を行っています。

◆ 情報収集・解析・発信業務

- 感染症情報センター

感染症の発生動向の集計・解析・情報発信を行っています。



<http://idsc.pref.akita.jp/kss/top.asp>

- モニタリングポスト

核実験や原子力災害に由来する県内の空間放射線量の変動を把握・監視しています。

空間放射線量
モニタリングポスト



- 大気測定局

テレメータシステムにより県内のPM2.5など、大気汚染物質の常時監視を行っています。



大気測定局

◆ 令和4年度調査研究課題等一覧

(R4. 4. 1 現在)

No.	研 究 課 題 名 等	事業 年度	委託元・共同研究機関	担当班
1	カンピロバクターレファレンスセンター事業	H元～	地方衛生研究所全国協議会	細菌 班
2	百日咳レファレンスセンター事業	H15～		
3	薬剤耐性菌レファレンスセンター事業	H27～		
4	食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究	R3～R5	国立感染症研究所、地方衛生研究所全国協議会北海道・東北・新潟支部	
5	環境中における薬剤耐性菌及び抗微生物剤の調査法等の確立のための研究	R3～R5	大阪健康安全基盤研究所、東北大学、国立感染症研究所	
6	食中毒原因細菌の検査法の整備のための研究	R3～R5	国立医薬品食品衛生研究所 他	
7	重症例由来下痢症起因菌のサーベイランス手法および病原性評価系の確立に関する研究	R3～R5	国立感染症研究所 他	
8	薬剤耐性菌のサーベイランス強化および薬剤耐性菌の総合的な対策に資する研究	R3～R5	国立感染症研究所 他	
9	カキ中のノロウイルス低減対策に関する研究	R2～R4	国立医薬品食品衛生研究所 他	ウイルス 班
10	ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランス及びワクチン効果の評価に関する研究	R3～R5	国立感染症研究所 他	
11	食中毒原因ウイルス等の汎用性を備えた検査法と制御を目的とした失活法の開発のための研究	R4～R6	国立医薬品食品衛生研究所 他	
12	環境放射能水準調査	S36～	原子力規制庁	理化学 班
13	食品中の残留農薬の分析精度向上と調理による変化に関する研究	R3～R5	センター独自	
14	化学物質環境実態調査	H元～	環境省	環境保 全班
15	八郎湖の富栄養化対策のための調査研究	R2～	センター独自	
16	自然湖沼における気候変動影響の観測と評価	R3～R5	国立環境研究所	

◆ 令和4年度当初予算（健康環境センター費）

歳出予算額	98,468千円
（内訳） 管理運営費	77,083千円
研究・活動費	1,144千円
施設・設備整備費	20,241千円

◆ 庁舎の概要

所在地： 秋田市千秋久保田町6番6号

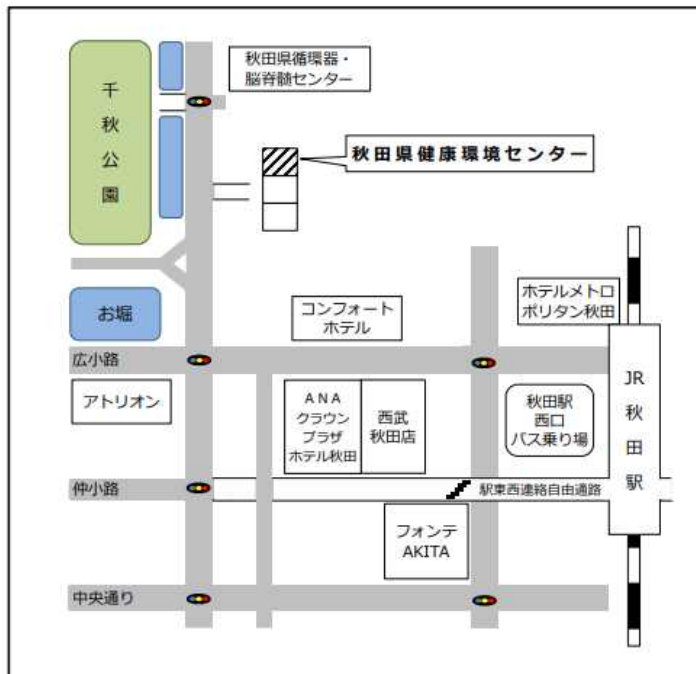
建 物： 鉄筋コンクリート造5階建

（延床面積 4,553.52㎡ 建床面積 867.75㎡）

◆ アクセス

○ 秋田駅より徒歩約10分

○ 秋田空港から秋田駅西口までリムジンバスで約40分



◆ ホームページ

「秋田県健康環境センター」(<http://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/rcphe>)



【感染症情報】 → 保健衛生関係業務 → 秋田県感染症情報センター (<http://idsc.pref.akita.jp/kss/>)

【大気汚染情報】 → 環境保全部の業務 → 大気汚染常時監視

(<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/47013>)

【放射能情報】 → 秋田県の環境放射能の状況 (<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/genre/13438>)

秋田県健康環境センター

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6番6号

TEL：018-832-5005 FAX：018-832-5938

E-mail：b10266@pref.akita.lg.jp